

TRIBELATE アマチュア大会オフィシャルルール

TRIBELATE アマチュアキックルール

[試合時の服装と防具]

上半身は T シャツ、下半身はトランクス、スパッツ、またはこれらに類似する動きやすい服装とする。但し T シャツは清潔で型崩れしていない物を着用しトランクス(スパッツ)の中に入れる。

ポケットや金具の付いた服装は禁止とする。

コンタクトレンズを使用しての出場は禁止する。

グローブの下はバンテージ、およびテーピングのみとする。(軍手は禁止)

試合は大会で規定された防具を必ず着用する。

選手は持参する防具は以下のものとする。

マウスピース、ファールカップ、膝あて、バンテージ類

[勝敗]

試合の勝敗は KO、TKO、判定、相手選手の反則行為による反則勝ちにより決定される。

判定基準

主審1名、副審3名によるジャッジを行う。ジャッジはこの副審3名の旗によって行い、3名のうち2名以上の意見が同一であればそれをポイントとする。

採点基準

1R1選手持点10点で減点制、有効打の的確度、相手へのダメージ、積極性を有効ポイントとして、判定、KO(2回のダウンで終了)TKO(ドクターストップ)で勝敗を決める。

有効打及びダメージはマイナス1ポイント、ダウンはマイナス2ポイント、反則はマイナス1ポイント(内容により即減点、負けになる場合があります)

審判員によりガードをしていない部分への明らかなクリーンヒットが認められた場合、確実なダメージに成り得ると判断された打撃技を「有効」とし、これをポイントとする。

また、技の如何に問わず打撃によるダメージが確認された場合、即座に両者を分けTKOにて勝敗を決する。

【 反 則 】

頭突き・ヒジ打ち・顔面へのヒザ蹴り・故意による金的・さば折り・倒れた相手、起き上がろうとしている相手に対しての攻撃・背後からの攻撃・投げ技・関節技・目突き・噛みつき・故意に場外へ出る行為・レフェリーまたは相手に対して侮辱的あるいは攻撃的言動(セコンドにも適用される)

【A クラス 首相撲の展開について】

対戦相手の頭や首、または肩に片手以上を掛けて攻撃する際はいかなる状況であっても組んで3秒で直ちにブレイクとする。

ただし、ブレイク後も同じ攻防となり、レフェリーがその攻撃が有効と認めない場合には、すぐにブレイクとすることもある。また、レフェリーが有効と認めない攻防が続く場合には、消極的な攻撃としてイエローカードとすることもある。ここでの攻撃とはパンチ、キック、膝蹴り、崩しのことを指す。

相手の脇の下に両腕を挿しての攻撃は攻撃の有無に関わらず直ちにブレイクとする。また、その展開がクリンチとみなされた場合はブレイクを掛けイエローカード（警告１）とする。同じ展開が２度目の場合もイエローカードとし、３回目でレッドカード（減点１）とする

対戦相手に頭や首、または肩に片手以上を掛けて攻撃される際、頭を下げての防御は危険であるので、イエローカード（警告１）とする。同じ展開が２度目の場合もイエローカードとし、３回目でレッドカード（減点１）とする

各クラスルール表

[A クラス] 2分3 R

マウスピース、スネあて、ヒザあて、ファールカップ、規定のグローブ（10oz）

キャッチからの攻撃禁止、顔面ヒザ蹴り禁止

[B クラス] 2分2 R

ヘッドギア、マウスピース、スネあて、ヒザあて、ファールカップ、規定のグローブ（12oz）

掴まずにヒザを打つことは有効、首相撲禁止、キャッチからの攻撃禁止、顔面ヒザ蹴り禁止

[C クラス] 90秒2 R

ヘッドギア、マウスピース、スネあて、ファールカップ、規定のグローブ（14oz）

膝蹴り一切禁止、首相撲禁止、キャッチからの攻撃禁止

[全クラス共通事項]

選手はスポーツマンシップにのっとり正々堂々戦うこと。

目潰し、サミング、金的攻撃を故意によって攻撃した場合、その時点で負けとする。

プロで試合している方は参加できません。

セコンドの人数は3人とします。セコンドスペースにはこれを超える人数は入れません。

試合の前には防具を装着し、試合進行の妨げにならぬよう準備スペースでお待ちください。

選手のレベル、申込人数の関係により出場できない場合もあります。

スポーツマンシップに反する行為とみなした場合は、失格、退場になります。

ほか注意事項

セコンドは1名~3名までとする。

大会中、前の選手が試合を行うまでに防具など準備を済ませておいてください。

遅い場合は減点になる場合がございます。

自己都合により不参加になった場合は料金を返金できませんので予めご了承ください。

参加人数の都合上、契約体重の相談、試合数の相談をさせていただく場合がございます。

参加人数の都合上、試合が組めない場合がございますので予めご了承ください。

TRIBELATEアマチュア総合ルール

第一条 / 試合時間

原則として全ての試合を3分2Rとする。

第二条 / 服装

競技者は試合に際して、上半身は裸とし、主催者の認可するヘッドギア（主催者準備）、オープンフィンガーグローブ、ニーパット、レガース(筒状のもの。布製・合皮製・皮製共に可)【以上3点持込可】、スパッツ、短パンなど(金具やポケットのついたものは使用不可。)ファールカップ、マウスピース【以上3点各選手必ず持参】、を必ず着用しなければならない。

第三条 / 勝敗

1. 絞め技、関節技によるタップアウト、意識の喪失による一本勝ち。
2. 全ての攻防においてレフェリーが危険と判断した場合のレフェリーストップによる一本勝ち。
3. 全ての攻防においてドクターが危険と判断した場合のドクターストップによる一本勝ち。
4. 打撃、テイクダウンによるKO勝ち。
5. 反則による失格負け。
6. 判定による判定勝ち。
7. セコンドのタオル投入によるTKO負け。

第四条 / 反則

1. 肘、頭部による打撃攻撃。
2. 両者または一方の競技者がグラウンドポジション（足の裏以外がマットについている状態）にあるときの顔面への一切の打撃攻撃。
3. 相手競技者がグラウンドポジションから立ち上がる瞬間を狙ってのキック攻撃。ただしグラウンドポジションの競技者がそこから攻撃に移行している場合は可能とする。
4. ヒールホールド
5. 試合中のレフリーへの罵倒、抗議、暴力行為。
6. レフリーの指示に従わない行為。
7. 金的への攻撃。
8. ダウンした相手への攻撃。
9. ロープの外に出た相手への攻撃。
10. 故意にロープの外へ出る行為。
11. レフリーのブレイクコールがあったにもかかわらず攻撃を行った場合。
12. 3本以下の指を掴む行為。
13. 競技用具を掴む行為。
14. 目への攻撃、指による突き、髪を掴むなど道徳上許されない行為。
15. 試合に際して危険と思われる過剰なテーピング。
16. 故意にロープコーナーポストを掴む行為。

17. 足を踏む行為。

18. 後頭部、脊椎部への打撃攻撃

19. 体、頭髪にオイル、整髪料ワセリン、それに類するものを塗付する行為。

20. レフリーが試合に際してスポーツマンシップにそぐわない危険な行為と判断した行為。

その他の反則は全てレフリーの判断によるものとする。

第五条 / 試合進行

1. 以下の場合レフリーによりブレイクとコールされる。ブレイクのコールを受けた場合、競技者は速やかに攻防をやめ、相手から離れ、スタンドの状態に戻らなくてはならない。

・試合が膠着し動きが止まったまたはこれ以上の進展がないとレフリーが判断した場合。リング外へ転落または転落するとレフリーが判断した場合。

・その他レフリーがブレイクのコールが必要と判断した場合。

2. セCONDは2名までとする。尚セCONDは試合中試合進行の妨げになる行為、発言、相手競技者

またはセCOND、レフリーに対する侮辱、罵倒行為をしてはならない。セCONDがそれらの違反行為を行った場合はセCONDについている競技者に反則が告げられる。

第六条 / 判定

1. 勝敗がつかないまま試合を終了した場合2名のジャッジ、レフリーの合計3名で判定を行う。

2. 3名のうち2名以上が支持した競技者の判定勝ちとする。

当日計量オーバーの場合再計量を試合開始15分前までに行い再度計量オーバーの場合試合が行われ

ない場合がある。試合が行われた場合、勝利しても参考記録にしかない。

当日のキャンセルや無断欠場、代替選手選出無し等の行動を取った選手は対戦相手に多大なる迷惑をかける事となります。絶対にしないようにして下さい。もしその様な行動を取った場合、今後の大会参加をお断りさせていただきます。

グラップリングルール

第一条 試合時間

原則として全ての試合を5分1Rとする。

第二条 服装

競技者は上半身、下半身とも主催者の認可する、たるみが無く、プラスチック・鉄など硬質の物を使用していない着衣を着用する。

例：上半身 - Tシャツ・ラッシュガード(全て体にフィットした、たるみの無い物とする)

下半身 - スパッツ・コンバットショーツ(全て体にフィットした、たるみの無い物とする)

レスリングシューズ、ニーパットは任意とする。着用する競技用具は必ずチェックを受けなければならない。

第三条 勝敗

1. 絞め技、関節技によるタップアウト、意識の喪失による一本勝ち。
2. 全ての攻防においてレフリーが危険と判断した場合のレフリーストップによる一本勝ち。
3. 全ての攻防においてドクターが危険と判断した場合のドクターストップによる一本勝ち。
4. テイクダウンによるKO勝ち。
5. 反則による失格負け。
6. 判定による判定勝ち。
7. セコンドのタオル投入によるTKO負け。

第四条 反則

1. 全ての打撃攻撃。
2. 試合中のレフリーへの罵倒、抗議、暴力行為。
3. レフリーの指示に従わない行為。
4. ローブロー。
5. ダウンした相手への攻撃。
6. ローブの外に出た相手への攻撃。
7. 故意にローブの外へ出る行為。
8. ドントムーブのコールがあったにも関わらず自分の意思で体を動かす行為。
9. レフリーのブレイクコールがあったにもかかわらず攻撃を行った場合。
10. 3本以下の指を掴む行為。
11. ヒールホールド
12. バスター(ガードポジション、またはそれに類する状態にある競技者を持ち上げてマットに叩き付ける行為)やそれに類する相手を頭からマットに落とす行為)
13. ジャーマンスープレックス、またはそれに類する頭からマットに叩き付ける危険な投げ技。
14. 競技用具を掴む行為。

- 15 . 目への攻撃、指による突き、髪を掴むなど道徳上許されない行為。
- 16 . 試合に際して危険と思われる過剰なテーピング。
- 17 . 故意にロープ、コーナーポストを掴む行為。
- 18 . 足を踏む(フットスタンプ)行為。
- 19 . 体、頭髪にオイル、整髪料ワセリン、それに類するものを塗付する行為。
- 20 . レフリーが試合に際してスポーツマンシップにそぐわない危険な行為と判断した行為。
その他の反則は全てレフリーの判断によるものとする。

第五条 試合進行

- 1 . 以下の場合レフリーによりブレイクとコールされる。ブレイクのコールを受けた場合、競技者は速やかに攻防をやめ、相手から離れ、スタンドの状態に戻らなくてはならない。
 - ・ 試合が膠着し動きが止まったまたはこれ以上の進展がないとレフリーが判断した場合。
 - ・ その他レフリーがブレイクのコールが必要と判断した場合。
- 2 . セCONDは1名までとする。尚セCONDは試合中試合進行の妨げになる行為、発言、相手競技者またはセCOND、レフリーに対する侮辱、罵倒行為をしてはならない。セCONDがそれらの違反行為を行った場合はセCONDについている競技者に反則が告げられる。

第六条 判定

- 1 . 勝敗がつかないまま試合を終了した場合、合計3名の審判員で判定を行う。
- 2 . 3名のうち2名以上が支持した競技者の判定勝ちとする。

以上